

□第6回ワークショップ「竹の台のこれからの取り組みを考える（その1）」まとめ

	取り組みアイデア	どこで	どうやって	だれが
少子化	子どもがのびのび遊べる環境をつくる	○竹の台小学校（図書館） ○福祉センターの和室をうまく使いたい ○たけのパーク（但し17時まで）	○小4～中学生を対象にした、放課後教室・図書室開放の実現 ○放課後教室・図書室開放の見守り員を募集する ○使える助成金を調査する	○地域委員会が学校のどちらか？ ○自治会は高齢化なので難しい
	若い世代を呼び込む定着させる		○竹の台の魅力をつくる ○「子育てしやすいまち竹の台」を発信する	
高齢化	高齢者が肉体的、精神的に元気な期間を延ばす取り組み		○既存の媒体を活用して活動グループや交流の場の情報提供を行う（自治会・管理組合掲示板／総合新聞／ホームページ等） ○老人会の枠を外した参加募集の検討 ○1人ずつ声掛けして勧誘する	○既存の各活動グループが中心になって行う
	高齢者の交流の場づくり			
	若い世代を呼び込む、定着させる			
	自治会役員などの今後の担い手を確保する取り組み		○あいさつ、声掛けにより、近所の同世代把握を進める	○住民各々で行う
	高齢者の買い物を地域で支援する			
防災・防犯	まち全体で防犯に力を入れている雰囲気をつくる		○夜に光る、黄色い腕章・ジャンパーを着る ○小学校の見守り隊を有償ボランティアで行う	○防犯情報の収集・発信は自治会で行う ○防犯の雰囲気づくりは地域の皆さんで行う（ウォーキング・散歩中・新聞配達員に協力を求める等）
	顔見知りの関係づくり コミュニケーションによる 情報共有		○見知らぬ人にもあいさつする ○世代の枠を越えたコミュニケーションを行う（例：ふれあい祭りに老人会も参加）	
	常に危機感をもっておくための継続した防災啓発		○防災イベントや講習会（市民救命士等）を広める ○学校開放デーでの防災訓練を増やす ○警察とタイアップした防犯イベントの企画（空家を使った防犯訓練など）	○自治会管理組合ではしんどいのではないかな…。
住民交流・親睦	交流の場を支援する仕組みをつくる	○施設・グループは既に充実している（児童館／地域福祉センター／たけのパーク等）	○やる気のある住民を一人ずつ吸い上げる ○交流団体リストを作成する	○地域委員会のネットワークを活用して ○地域委員会が中心となって行う
	既存の活動への参加の幅を広げる	○小学校の活用も検討する（空き教室／体育館／グラウンド）	○助成や基金を確保する（竹の台交流基金） ○住民交流の実情を調査する（どんな人がどんな交流活動をしているか）	
	地域の情報発信の幅を広げる		○自治会組織の情報網を利用して案内する ○友愛訪問活動を活用して案内する ○既存の媒体を活用して活動グループや交流の場の情報提供を行う（自治会・管理組合掲示板／総合新聞／ホームページ等） ○竹の台HPで交流団体コーナーをつくる	○地域委員会が自治会・友愛訪問グループと協力して行う